

Title	附属図書館100周年：「『静脩』総目次」を読む(2)
Author(s)	松田, 博
Citation	静脩 (2000), 36(3): 12-14
Issue Date	2000-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/37556
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

附属図書館百年

『『静情』総目次』を読む

附属図書館情報サービス課雑誌・特殊資料掛長 松田 博

『総目次』の「資料紹介」に関わってもう一点ふれておきたい。京都大学が所蔵する特殊文庫で、規模も大きくしかも内容的にもその豊かさが重要視されながら、逆に『静情』で紹介されなかったものがある。『全国国立大学所蔵貴重図書目録』（1973年）当時の特殊文庫でみてもその数はかなりになるが、それらのうち1万冊を超える文庫で紹介・解説のないものに「桑原隲蔵文庫」、「マイヤー文庫」、「松本文三郎文庫」の三つがある。とりわけ、上野文庫やビューチャー文庫とならび、経済学部の三大コレクションの一つでもある「マイヤー文庫」が、『静情』で紹介されてこなかったことは、受入当時の歓迎ぶりからみても、コレクションの内容からみてもたいへん残念で不幸なことであったと思われる。そこで、少し古いものではあるが1985年当時、別の機会に書いた原稿が手許に残っているので、それをなぞりながら「マイヤー文庫」についてふれておきたい。

「マイヤー文庫」は、統計学会の権威でミュンヘン大学教授であったゲオルグ・フォン・マイヤーの旧蔵になるコレクションで、官房学関係、統計学関係・各国・各種統計書を主とする内容の、総数1万5千余冊の文庫である。氏の没後、文庫が市場に売りに出されたのを知った京大経済学部が、大蔵省を動かして、ドイツから受け取る賠償金から1万6千マルク（邦貨にして当時の約1万4千円）を割き、1929年に購入したものである。当時、学界では東大の「エンゲル文庫」が1923年の関東大震災で焼失してしまった（ただし、焼失を免れた1126冊が復活されている。「『Classified Catalogue of Engel's Library』1984年」）こともあり、この「マイヤー文庫」の京大への招来に対し大きな期待を寄せていた。

マイヤーは、1841年2月12日、ピュルツブル

クで数学を専攻する大学教授を父として生まれた。同地のギムナジウムに入り勉学に勤しんだ後、給費生としてミュンヘン大学に学んだ。ミュンヘン大学では法律学および国家学を学び、1865年には国家試験に合格し、翌1866年母校経済学部の私講師になるとともに、同時にバイエルン官房統計課に入った。1868年には助教授に昇るとともに、統計課では翌年ヘルマン教授の死によって課長を引き継ぎ、組織替えとともに局長に任じられた。1878年、帝国煙草専売調査委員として米国を調査し、その報告がビスマルクの注目するところとなり、帝国の官房に移ることとなった。アルザス-ロートリンゲン省の副秘書官として財政ならびに御料地に関する局長に任ぜられたことからシュトラスブルクに移り、1887年までの7年間をこの地で活躍した。1887年官界を去り再び学界にもどった。1890年シュトラスブルグ大学の私講師として招かれ、5年後の1895年に名誉教授となった。更に3年後の1898年、母校ミュンヘン大学に正教授として迎えられ、1920年まで勤めあげた。その間1913年から1914年まで同大学の総長を務めた。1920年の後も大学に通い研究を続けたが、1925年85才で他界した。

このような経歴を持つマイヤーの蔵書は、特に統計局長の任をおったことから、各国・各種統計書がその主流をなしており、“Preussische Statistik. Berlin, 1891-1925.” “Schweizerische Handelsstatistik. Bern, 1860-1919.” “Statistique du Royaume de Serbie. Belgrad, 1902-1907.” “Statistisches Jahrbuch für Deutsche Reich. Berlin, 1880-1937.” “Statistische Jahrbuch für Elsass-Lothringen. Strassburg, 1910-1914.” 等をはじめとして6千冊をこえる蒐集がなされている。コレクションの中心でもあるこれら統計書関係については、従って、今後の紹介が予想さ

れるのでそれにゆだねるとして、ここではむしろ、コレクション中の自然科学関係のものが一定数をしめることに戸惑いというか、少し違和感を覚えるので、それら原典のいくばくかを紹介しつつ、このあたりの事情についてふれておきたい。

Berchorius, Petrus: Liber Bibliae moralis. Ulm, J.Zainer, 1474. ベルコリウス『道徳論』はインクナブラの1点であり、ドイツの都市UlmでJ. Zainerが印刷、出版したものである。黒一色刷り、ダブルコラムスの体裁で、装訂は羊皮の41cmの大型本である。Descartes, René: Discours de la méthode pour bien conduire sa raison, & chercher la verité dans les sciences. Plus, la dioptrique, les météores, et la géométrie, qui sont des essais de cette méthode. Leyde: I.Maire, 1637. デカルト『方法序説』は、原文31語の長文のタイトルであるが、方法を語る部分のみ独立させ、はじめの4語でもってそう呼ばれている。印刷、出版は、J. Maireで、オランダのライデンで出版された。デカルト41才の時の刊行である。フランス語で書かれ、「序説」本文及び「屈折光学」、「気象学」、「幾何学」の三試論からなっている。今日、この本が何部存在するかは定かでないが、稀覯なものであることには間違いない。京大経済学部以外には慶応大学、金沢工業大学にその所蔵を確認することができる。Newton, Isaac: Philosophiae naturalis principia mathematica. Londini, J.Streater, 1687. ニュートン『自然哲学の数学的原理』、通称「プリンキピア」と呼ばれるこの書は、科学史上最も偉大な著作で、これに匹敵するのはダーウィンの『種の起源』のみであろうとも云われている。ニュートン45才の時の刊行であるが、ラテン語で書かれ、内容は「力学理論」、「流体力学」、「天文学」に分かれている。初版には2種類があり、「『プリンキピア』の自然哲学」(1)、「ニュートン『プリンキピア』初版(1687)」(2)等によれば、出版部数は国内向け(A)が250-400部、販売者名のはいった国外向け(B)が50部刊行されている。定価は(A)が9シリングで、(B)はそれより高い値段がつけられた。1963年当時

で(A)が143点、(B)が46点の総計189点の現存が確認されているという。ちなみに、国内の所蔵機関についてみれば、(A)は国立国会図書館、慶応大学、金沢工業大学に、(B)は京都大学、東京大学、近畿大学にその所蔵を確認することができる。第2版が刊行されたのは1713年のことである。Newton, I.: Optice. 1706. 同『光学』は「プリンキピア」と並ぶニュートンの二大主著であるが、ニュートンの理論に対するフックやホイヘンスの反論、論争の中で、原稿がほぼ完成した1694年の10年後、1704年2月に英語版で出版された。「マイヤー文庫」所蔵のラテン語版からは著者名が入っている。Gauss, Karl Friedrich: Disquisitiones arithmeticae. Lipsiae, G.Fleischer, 1801. ガウス『整数論研究』は、近代整数論の基礎を構築した著作として高い評価がなされている。ガウス24才の時の刊行である。Gauss, K.F.: Theoria motvs corporvm coelestivm in sectionibvs conicis solem ambientivm. Hambvrgi, F.Perthes, 1809. 同『天体運行論』は、ガウスが天文学や地磁学の研究に没頭した時期に完成をみた大著のひとつである。以上であるが、これら以外に、ユークリッド(Euclides)“Elementorvm. 1574.”やオイラー(Euler, L.)“Introductio in analysin infinitorum. 1748.”、ラグランジェ(Lagrange, J.L.)“Théorie des fonctions analytiques. 1797.”、ラプラス(Laplace, P.S.)“Mechanik des Himmels, 1800-1801.”、リービヒ(Liebig, J.v.)“Einleitung in der Naturgesetz des Feldbaues. 1862.”、リンネ(Linné, C.)“Philosophia botanica. 1780.”、メール及びボスコヴィッチ(Maire, C. et Boscovich, R.J.)“Voyage astronomique et géographique. 1770.”等もみられる。こうした自然科学関係分野の組織的、目的意識的な文献渉猟はマイヤー本人とは思えず、従って、父アロイス・マイヤーによって蒐集・構成されたということが出来る。というよりむしろ、これらの蒐集は数学・天文学を専攻していたアロイス・マイヤーにしてみれば当然のことであったというべきであろう。

次に経済学関係文献について紹介しておきたい。パベジ『機械及び製品の経済について』

初版 1832 年、ブレンターノ『農業政策』初版 1897 年、ビューヒャー『労働とリズム』初版 1896 年、ハスパッハ『アダム・スミス研究』初版 1891 年、ジュースミルヒ『神の秩序』1762-1776 年、マルサス『人口論』6版 1826 年、メンガー『ドイツ国民経済学における歴史主義の誤謬』初版 1884 年、ミル『政治経済学綱要』仏語版 1821 年、ミラボー『人間の友』1758 年、ニース『独立の学問としての統計学』初版 1850 年、リカード『経済学及び課税の原理』仏語版 1821 年、サヴァリ『完全な商人』1726 年、シュモラー『一般国民経済学原理』初版 1900-1904 年、シスモンディ『商業的富について』初版 1803 年、スミス『国富論』独語版 1810 年、スチュアート『経済学原理』1796 年、スタイン『フランス社会運動史』初版 1850 年、チューネン『孤立国』1850 年、トレンズ『穀物貿易論』3版 1826 年、同『富の生産に関する一論』初版 1821 年、ヤング『政治算術』1777 年をはじめ基本的な文献が幅広く集められている。“Colbert, J.B.: La vie de Jean-Baptiste Colbert. 1695.” “Mirabeau, V.R.: Théorie de l'impôt. 1761.” “Steuart, J.: Abhandlung von den Grundsätzen der ... 1761.” “Pfeiffer, J.F.v.: Lehrbegriff sämtlicher economischer Cameralwissenschaften. 1764-1779.” “Necker, J.: De l'administration des finance de la ... 1784.” “Thompson, B.: Essays, political, economical and philosophical. 1798.” “Borowski, G.H.: Abriss des praktischen Cameral- und Finanz-Wesens. 1799.” “Young, A.: Le cultivateur anglois ... 1800-1801.” “Bentham, J.: Tactik oder Theorie des Geschäftsganges ... 1817.” “Nebenius, K.F.: Der öffentliche Credit. 1820.” “Saint-Simon, H.: Du système indudriel. 1821.” “Ganihl, C.: La théorie l'èconomie politique. 1822.” 等、年代を追うとかなりのものが揃っている。

法学、哲学等の分野でも、グロティウス (Grotius, H.) “De jure belli ac pacis. 1680.”、モール (Mohl, R.) “Der Polizei-Wissenschaft nach den Grundsätzen des Rechtsstaats. 1866.”、ベール (Bayle, P.) “Dictionnaire historique et critique. 1741.”、リヴィウス (Livius, T.) “Römische Historien, jetzundt ... 1538.”、カント (Kant, I.) “Critik der Urtheilskraft. 1790.” 等がある。特に、最後のものは19世紀を通して西洋哲学思想を支配したカント思想の中で異彩を放つ、『純粹理性批判』1781 年、『実践理性批判』1788 年、『判断力批判』1790 年のいわゆる三批判書の最後にあたる。紙幅の関係でこれ以上の紹介ができないが、今日では入手困難な文献が数多く網羅されている。また、これら1万5千冊以外に大量のパンフレット・抜き刷りがあり、この中には一部ながらアロイス・マイヤーのものも見受けられるが、文庫の内容を補完するものとなっている。

「マイヤー文庫」はこれまでゲオルグ・フォン・マイヤーの蒐集に関わるものとみなされてきたが、内容を吟味・検討してみると、その比率は極めて小さいもののアロイス・マイヤー蔵書を含めた親子2代にわたるコレクションであったと、現時点では修正を加える必要があるかと思う。以上を紹介しておきたい。

1: 佐々木 力『プリンキピア』の自然哲学』『思想』No.762.岩波書店(1987年12月)[佐々木 力『近代学問理念の誕生』岩波書店(1992年10月)に加筆再録]

2: 「ニュートン『プリンキピア』初版(1687)」『国立国会図書館月報』327号 国立国会図書館(1988年6月)

(まつだ ひろし)